

九州初記録のハタ科魚類ヌノサラシ *Grammistes sexlineatus*吉田朋弘¹・岩坪洗樹²・本村浩之³¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科² 〒 898-0001 鹿児島県枕崎市松之尾町 33-1 枕崎お魚センター 鹿児島水圏生物博物館³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

ハタ科 Serranidae は日本近海に 34 属 136 種が分布しており (岡本ほか, 2012; Endo and Kenmotsu, 2013; 瀬能, 2013, 2014; Koeda et al., 2015; 藤原ほか, 2015), そのうちヌノサラシ属 *Grammistes* はヌノサラシ *G. sexlineatus* (Thunberg, 1792) のみで構成されている (瀬能, 2013). 本種は国内では伊豆諸島, 小笠原諸島, 岩手県大船渡, 相模湾から高知県柏島にかけての太平洋沿岸, 屋久島, 琉球列島, 南大東島, および尖閣諸島から記録されている (瀬能, 2013).

2014 年 4 月 16 日に鹿児島県南九州市颯娃町別府番所鼻自然公園地先の周辺海域において, ヌノサラシが 1 個体採集された. 本標本は九州初記録となり, 分布の空白を埋めるものであるため, ここに報告する.

■ 材料と方法

計数・計測は, Randall and Baldwin (1997) にしたがった. 標準体長は体長と表記し, デジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学

総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

■ 結果と考察

Grammistes sexlineatus (Thunberg, 1792)

ヌノサラシ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 60779, 体長 81.6 mm, 鹿児島県南九州市颯娃町別府番所鼻自然公園地先, 31°14'N, 130°26'E, タモ網, 水深 1 m, 2014 年 4 月 16 日, 岩坪洗樹.

記載 背鰭棘数 7; 背鰭軟条数 14; 臀鰭棘数 2; 臀鰭軟条数 9; 胸鰭軟条数 17; 腹鰭棘数 1; 腹鰭軟条数 5; 総鰓耙数 6 + 13 = 19; 櫛歯状に発達した鰓耙数 2 + 7 = 9.

体各部測定値の標準体長に対する割合 (%): 体高 41.5; 体幅 23.4; 頭長 38.1; 眼径 7.7; 吻長 9.2; 両眼間隔 (骨質部で測定) 7.8; 上顎長 18.9; 尾柄長 17.0; 尾柄高 15.3; 背鰭前長 39.2; 背鰭第 1 棘条長 4.5; 背鰭第 2 棘条長 11.4; 背鰭第 3 棘条長 11.8; 背鰭第 4 棘条長 11.3; 背鰭最長軟条長 16.5; 臀鰭前長 77.6; 臀鰭最長軟条長 16.8; 尾鰭長 25.6; 胸鰭長 8.9; 腹鰭前長 34.6; 腹鰭棘条長 11.8; 腹鰭最長軟条長 20.3.

体は細長く, やや側扁する. 口は大きく斜位で, 口裂はわずかに斜行し, 主上顎骨後縁は眼後縁を越える. 下顎に皮弁を有する. 両顎は円錐歯が歯帯を形成し, 歯帯の幅は前方が広く, 後方は狭い. 鋤骨は円錐歯が歯帯を形成する. 前鼻孔は短い管

Yoshida, T., H. Iwatsubo and H. Motomura. 2016. First record of *Grammistes sexlineatus* (Perciformes: Serranidae) from Kyushu, Japan. *Nature of Kagoshima* 42: 135-138.

✉ TY: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).



Fig. 1. Fresh specimen of *Grammistes sexlineatus*. KAUM-I. 60779, 81.6 mm standard length, Bandokorobana Nature Park, Ei, Minami-kyushu, Kagoshima, southern Japan.

を有し、その先端が開孔する。後鼻孔は孔状で、眼前縁近くに開孔する。前鰓蓋骨の縁辺は円滑。前鰓蓋骨後縁に2本の太い棘がある。主鰓蓋骨に3本の棘を有する。側線は1本で、鰓蓋上方から尾柄部直前まで連続するが、不明瞭である。鱗は小さく円鱗であり、皮膚に埋没している。背鰭起部は胸鰭基部下端の直上に位置する。胸鰭先端は背鰭第5棘基底直下に位置する。臀鰭起部は背鰭第4軟条基底直下に位置する。腹鰭は短く、その先端は背鰭第4棘基底直下に位置する。尾鰭は円形。

色彩 生鮮時の色彩—体全体は暗茶褐色を呈し、不規則な黄色線がはしる。背鰭と臀鰭の棘と軟条は茶色を呈し、鰭膜は半透明。胸鰭と尾鰭の軟条は茶色を呈し、鰭膜は半透明。腹鰭の棘と軟条は茶色を呈するが、鰭膜は白色がかった半透明。

備考 鹿児島県番所鼻自然公園地先で採集された標本は、背鰭棘が7本であること、前鰓蓋骨後縁に3本の棘があること、下顎皮弁を有すること、体高が体長の41.5%であることから、瀬能(2013)が記載したヌノサラシ *Grammistes sexlineatus* の特徴とよく一致した。

Tanaka (1924–1925) は和歌山県田辺から得ら

れた1個体に基づき *G. sexlineatus* の和名をヌノサラシとした。その後、ヌノサラシは八丈島(Senou et al., 2002)、小笠原諸島(Randall et al., 1997)、岩手県大船渡(岡本ほか, 2000)、相模湾(Senou et al., 2006b)、三重県尾鷲(瀬能, 2013)、和歌山県白浜(荒賀, 1985)・すさみ(瀬能, 2013)・串本(小寺, 2012)、高知県柏島(平田ほか, 1996)、山口県(河野ほか, 2011)、大隅諸島硫黄島(荻原, 2013)・屋久島(Motomura et al., 2010)、トカラ列島宝島(Kamohara, 1954; 蒲原, 1955)、奄美群島奄美大島(工藤, 1995; 吉郷ほか, 2001)・沖永良部島(吉郷ほか, 2005)・与論島(桜井, 2014)、沖縄諸島沖縄島(吉郷・中村, 2003; 吉郷ほか, 2005)・伊江島(Senou et al., 2006a)、慶良間諸島渡嘉敷島(渡井ほか, 2009)、宮古諸島(Senou et al., 2007)、八重山諸島西表島(吉郷・中村, 2002; 石川, 2010)・与那国島(吉郷ほか, 2001)、大東諸島南大東島(南大東村誌編集委員会編, 1990; 吉郷ほか, 2005)、および尖閣諸島(西島・吉野, 1980)などから報告されている。鹿児島県番所鼻自然公園地先から採集された1個体は、ヌノサラシの九州からの標本に基づく初めての記録となる。また、本報告はこれま

での国内における本種の分布の空白域を埋めるものである。

ヌノサラシは危険を感じると魚毒性を有するグラミスチンという皮膚毒を分泌する(橋本, 1977)。また、本種は共食いすることが知られており(Randall et al., 1971)、ヌノサラシにとって皮膚毒は捕食する際に自身に影響はないと考えられる(橋本, 1977)。しかしながら、ニューギニアでは本種を食べて、人が死亡した報告がある(橋本, 1977)。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」と鹿児島水圏生物博物館と観光養殖場タツノオトシゴハウスの「番所鼻いきものガイドプロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPS研究拠点形成事業—アジア・アフリカ学術基盤形成型—「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性と其の保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

荒賀忠一. 1985. ヌノサラシ. P. 153. 小西英人(編), さかな大図鑑. 週刊釣りサンデー, 大阪.

Endo, H. and Kenmotsu, K. 2013. *Suttonia coccinea*, a new grammistin fish from Japan (Acanthopterygii: Serranidae). Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology), Supplement, 7: 11–18.

藤原恭司・高山真由美・桜井 雄・本村浩之. 2015. 日本におけるハタ科魚類キテンハタ *Epinephelus bleekeri* の記録と分布状況. タクサ, 39: 40–46.

橋本芳郎. 1977. 魚貝類の毒. 東海大学出版会, 東京. xii + 377 pp.

平田智法・山川 武・岩田久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相—行動と生態に関する記述を中心として—. 高知大学海洋生物教育研究センター研究報告, (16): 1–177.

石川皓章. 2010. 釣りが, 魚が, 海がもっと楽しくなる! 海の魚大図鑑, 初版. 日本書院, 東京. 399 pp.

Kamohara, T. 1954. A list of fishes from the Tokara islands, Kagoshima Prefecture, Japan. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 3(3): 265–299.

蒲原稔治. 1955. トカラの魚. 高知大学学術研究報告, 4 (8): 1–11.

河野光久・土井啓行・堀 成夫. 2011. 日本海産魚類目録(予報). 山口県水産研究センター研究報告, (9): 65–94.

Koeda, K., Chiba, N. S. and Motomura, H. 2015. First Japanese specimen-based record of *Liopropoma tonstrinum* (Teleostei: Serranidae), from Minami-daito Island, Daito Islands, southern Japan. Species Diversity, 20: 19–22.

小寺昌彦. 2012. 海中展望塔に集まる魚 (36) 2011年1月～12月. 串本海中公園パビリオン, 41 (2): 4–5.

工藤孝浩. 1995. 奄美大島の海. I. O. P. Diving News, 6 (8): 6.

南大東村誌編集委員会編. 1990. 南大東村誌(改訂). 南大東村役場, 南大東, xx + 1230 pp., 29 pls.

本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)

Motomura, H., Kuriwa, K., Katayama, E., Senou, H., Ogihara, G., Meguro, M., Matsunuma, M., Takata, Y., Yoshida, T., Yamashita, M., Kimura, S., Endo, H., Murase, A., Iwatsuki, Y., Sakurai, Y., Harazaki, S., Hidaka, K., Izumi, H. and Matsuura, K. 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Pp. 65–248 in Motomura, H. and Matsuura, K. (eds.), Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo.

西島信昇・吉野哲夫. 1980. 第3章 水中動物調査(海岸動物及び陸水動物). Pp. 82–117. 沖縄開発庁(編). 尖閣諸島調査報告書, 沖縄開発庁, 那覇.

荻原豪太. 2013. ヌノサラシ. Pp. 74–75. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一(編). 鹿児島県三島村—硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.

岡本 誠・星野浩一・木暮陽一. 2012. 東シナ海から採集された日本初記録のハナダイ亜科魚類ミズボハナダイ(新称) *Plectranthias elongatus*. 魚類学雑誌, 59 (1): 55–60.

岡本 誠・諏訪 仁・青沼佳方. 2000. 三陸沿岸における無効分散型魚類ヌノサラシの出現. I. O. P. Diving News, 12 (1): 4–5.

Randall, J. E., Aida, K., Hibiya, T., Mitsuura, N., Kamiya, H. and Hashimoto, Y. 1971. Grammistin, the skin toxin of soapfishes, and its significance in the classification of the Grammistidae. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 19 (2/3): 157–190.

- Randall, J. E. and Baldwin, C. C. 1997. Revision of the serranid fishes of the subtribe Pseudogrammina, with descriptions of five new species. *Indo-Pacific Fishes*, 26: 1–56, pl. 1.
- Randall, J. E., Ida, H., Kato, K., Pyle, R. L. and Earle, J. L. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes of the Ogasawara Islands. *National Science Museum of Nature and Science Monographs*, (11): 1–74, pls. 1–19.
- 桜井 雄. 2014. ヌノサラシ. Pp. 157–158. 本村浩之・松浦啓一 (編). 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科. Pp. 757–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏. 2014. フジナハナダイ. Pp. 160–161. 本村浩之・松浦啓一 (編). 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- Senou, H., Kobayashi, Y. and Kobayashi, N. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 36: 47–74.
- Senou, H., Kodato, H., Nomura, T. and Yunokawa, K. 2006a. Coastal fishes of Ie-jima Island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 35: 67–92.
- Senou, H., Matsuura, K. and Shinohara, G. 2006b. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum*, (41): 389–542.
- Senou, H., Shinohara, G., Matsuura, K., Furuse, K., Kato, S. and Kikuchi, T. 2002. Fishes of Hachijo-jima Island, Izu Islands Group, Tokyo, Japan. *Memoirs of the National Science Museum*, (38): 195–237.
- Tanaka, S. 1924. Figures and descriptions of the fishes of Japan including Riukiu Islands, Bonin Islands, Formosa, Kurile Islands, Korea and southern Sakhalin. *Figures and descriptions of the fishes of Japan*, 33: 607–628, pls. 148–150.
- Tanaka, S. 1925. Figures and descriptions of the fishes of Japan including Riukiu Islands, Bonin Islands, Formosa, Kurile Islands, Korea and southern Sakhalin. *Figures and descriptions of the fishes of Japan*, 34: 629–644, pls. 151–153.
- 吉郷英範・市川真幸・中村慎吾. 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (IV). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (5): 1–51, pl. 1.
- 吉郷英範・内藤順一・中村慎吾. 2001. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録. 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (2): 119–168.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2002. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (II). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (3): 85–136, pl. 1.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2003. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (III). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (4): 31–75, pl. 1.
- 渡井幹雄・宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏. 2009. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (38): 119–132.